

にじいろガーデン プランター花壇

2病棟に長期入院中の学齢期の子ども達と、春～夏用のにじいろガーデンで今回初めて栽培した夏野菜(ナス・トマト)の収穫も終わりを告げました。

今夏の野菜の収穫個数の結果は、ナス①14本、ナス②10本、トマト8個、ミニトマト65個でした。

このように実を結んだのも、苗植え、水やり、芽かき、支柱立て、追肥、病害虫対策など、5月～ここ数ヶ月間に渡る子ども達と病棟スタッフとの努力の積み重ねの賜物だと思います。

また、子ども達が育ててきた野菜の生長の様子、作業の様子、野菜の特徴などの記録や、野菜の生長と人の成長過程には共通するところがあるのではないかといった気付きを得るために、「野菜の生長観察カレンダーすごろく(ナス編)(トマト編)」の作成にも子ども達と取り組みました。

これを改めて見返すと、子ども達は自分達が一生懸命世話をした分、ぐんぐん育つという達成の喜びを感じたり、時には病害虫の障害に突き当たり自分の意思通りにはならないこともあり、生きものとの関わりには時間がかかるため、責任感と共に育てるには忍耐力も必要であること



▲野菜の生長観察カレンダーすごろく(ナス・トマト編)

など、育てるために大切なことを野菜の栽培を通して学ぶことが出来たのではと思います。

また、「大きく育ててほしい、美味しい実をつけてほしい」「そのためにメンテナンスを頑張る」と愛情込めて野菜を育ててきたように、きっと子ども達自身も家族や友達、病棟スタッフらから「健康で実りの多い日々を過ごしてほしい」「途中で挫折しそうになっても支え合い、共に乗り越えていこう」などと温かく見守られながら、その周囲の優しさや思いやり、愛情を育ちの肥料として、現在大きく成長している最中であり、いつか自分なりの実を結ぶ日もくると実感していることと思います。

これからも、にじいろガーデンでの植物や野菜を育てる活動を通して、子ども達には多くの気付きを得ながら自分自身をも育てていてもらいたいです。

(保育士 伊藤 真衣)



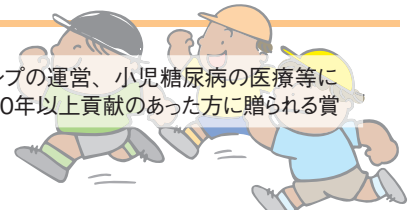
小児糖尿病功労賞

国立病院機構三重病院 院長 藤澤 隆夫

このたびは小児糖尿病功労賞をいただきましたこと、身に余る光栄です。長年、東海地区小児糖尿病サマーキャンプに参加し、運営に携わらせていただきましたが、わたし自身がキャンプに育てられたと感じております。全てはキャンパーの皆さん、献身的に活動された多くのスタッフの皆さんのおかげと存じます。関係各位にこころよりお礼を申し上げます。

わたしは医師となった1980年に初めてキャンプに参加しました。真夏の強い日差しの中で、キャンパーの子どもたちと一緒に真っ黒になって走り回ったことは、本当に楽しく、わたしがキャンプに「はまる」きっかけとなりました。また、血糖自己測定の後、キャンプでの生活に即して、インスリン量の指示を出される先輩の先生方の治療の「技」に感銘を覚え、「いつか自分もこんな治療ができるようになりたい」と、糖尿病診療の勉強も始めることになりました。

サマーキャンプの運営、小児糖尿病の医療等に原則として10年以上貢献のあった方に贈られる賞



以後、毎年、夏はキャンプで真っ黒になることがわたしの恒例行事になりました。東海地区の小児糖尿病サマーキャンプは74年に始まった、わが国でも歴史の古いキャンプの一つです(<http://www.dmcamp-tokai.jp/>)。愛知、岐阜、三重のさまざまな医療施設のスタッフや学生ボランティア、ポストキャンパーによって共同運営されている少しユニークなキャンプで、多くのスタッフの熱意によって支えられています。しかし、確固とした組織というわけではないので、さまざまな人的、財政的な困難もありました。わたしは年を経るとともに、「真っ黒」になるだけでは済まなくなり、運営を中心的にさせていただくことになりましたが、困難を乗り越えていく中で、人のつながりの大切さ、つながりを創っていくことの大切さを深く学ぶことができました。

これからも、「皆で創っていく」キャンプがますます発展していくことをこころから祈念しております。ありがとうございました。